全国ペット・ツーリズム連絡協議会　平成26年度シンポジウム

ペット・ツーリズムの魅力と推進方策

〈日時〉

平成26年11月18日(火)

14:00～16:30

〈場所〉

東洋大学白山ｷｬﾝﾊﾟｽ 8号館

7階125周年記念ホール

主催：全国ペット・ツーリズム連絡協議会

Program

14：00	**開会挨拶** 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授・大学院研究科長　東海林克彦 **＜コーディネーター＞** 東洋大学国際観光学科　教授　東海林　克彦 （公益社団法人日本愛玩動物協会会長） 株式会社ぐらんぱう　代表取締役　藤野　宇一郎
14：00～14：30	**基調講演　「ペット・ツーリズムによる観光地の振興」** 元観光庁長官　溝畑　宏　氏
14：30～15：00	**事例発表講演①　「山梨県におけるペット・ツーリズムの推進」** 山梨県観光部主査　平林　正光　氏
15：00～15：30	**事例発表講演②　「ペット宿（同伴宿泊ホテル）の課題と推進方策」** 株式会社セラヴィリゾート泉郷 わんわんパラダイス総支配人　市原　隆夫　氏
15：30～16：00	**事例発表講演③** **「リゾート・レジャー施設におけるペット受け入れの課題と推進方策」** 株式会社西武ペットケア代表取締役　田中　健司　氏
16：00～16：30	**質疑応答**
16：30	**閉会**
17：00～	**懇親会**（希望者のみ、会費制 3000 円）

※プログラムは一部変更となる場合がございます

基調講演

ペット・ツーリズムによる観光地の振興

元観光庁長官　**溝畑宏**

総務省、北海道庁、大分県庁などで国と地方の両面で行政の仕事に携わりました。特に、述べ 19 年間勤務した大分県庁での地方行政の経験がその後の私の人生を運命づけたといっても過言ではありません。その中でプロサッカーチーム（大分トリニータ）の立上げに携わり、２００２年 WC サッカーの招致、そして大会成功に向けて奮闘努力した日々がつい昨日のように思い出されます。特に公務員を退職して人生をかけた大分トリニータでは、ナビスコ杯で優勝するなど、地方のチームでも、大手スポンサーがいなくても、地域一丸となって努力すれば日本一になれる、ということを体験できました。こういった経験の中で培われていったのが、「日本を元気に、地域から世界へ、地域活性化なくして日本の再生なし」という理念であります。

この理念を実現するために、観光庁長官時代には、現場主義を徹底する考えの下、各地域に積極的に足を運び、地域の志ある方々と意見交換し、施策に反映していきました。日本が真に観光立国を実現するために最も重要な国際観光の面では、外国人観光客が旅行しやすいような受け入れ環境を整備しつつ、人気アイドル グループ「嵐」を観光立国ナビゲーターに任命し、共に日本をアピールするためにアジアを中心として世界各地を奔走しました。

あの東日本大震災で東北が壊滅的被害を受けた時には、観光面からの復興の必要性を訴え、いち早く被災地を回り、人気韓国人俳優のペ＝ヨンジュンの支援で救援物資を届け、慰問・対話を通じて、被災地から日本全体の再生につなげるよう、復興に向けて立ち上がる力を訴え続けました。また、レディー＝ガガ、ジャス ティン＝ビーバー、イル＝ディーヴォなどの訪日した著名人からのメッセージを活用し、安全・安心を世界に発信しました。様々な取組を通じて、被災者の皆さんが精神的に立ち直れるように観光の域を超えた活動をしてきました。

今回お話しする「ペット・ツーリズム」は、ヨーロッパでの生活経験のある私にとっても非常に興味深いテーマです。また、観光地の地域活性化に非常に役に立つものになる可能性を秘めているものですが、今後はペット飼育世帯が旅行にいけない等といった課題を打開していくことが非常に大切なことになると考えています。

観光庁長官に就任（2010年1月）

ベストドレッサー賞（2010年）

元観光庁長官　溝畑　宏

■現在の主な役職
地域経済に関する有識者懇談会委員
総務省地域力創造アドバイザー
大阪府　特別顧問
京都府　参与
東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会評議委員

事例発表
講演①

山梨県におけるペットツーリズムの推進

山梨県観光部主査　**平林正光**

ペット同伴旅行の需要が急速に高まる中、山梨県では、ペットの受入可能な宿泊施設・観光施設を総合的にＰＲすることにより、本県において新しい旅行需要に応えることを目的に、平成２５年度より「ペットツーリズム推進事業」に取り組んでいる。

平成２５年度は、全国自治体に先駆けて「県内ペット受入可能施設のホームページ、フェイスブック」を立ち上げた他、「受入可能施設のパンフレット作成・配布」など“情報の発信・交流ツール”を整備し、情報発信に着手した。

また、平成２６年度は、整備したフェイスブック、ホームページなどの情報発信ツールを本格的に活用し、ディスクドッグ大会や八ヶ岳ペットネットが行うイベントなどより一層の情報拡散を図ることにより、ペット同伴の観光客の本県への呼び込みを推進している。あわせて、メディア関係者や旅行エージェントなど情報発信力や集客力の高い者を対象としたペットツーリズムのモニターツアーを開催し、本県のペットツーリズムの魅力を広くＰＲする予定である。

現在、ペットツーリズムは急速に全国展開している。今後さらに高まりが想定されるペットツーリズムについて、より強力な情報発信を推進していきたい。

図１：ホームページ

図２：パンフレット

山梨県観光部観光企画・ブランド推進課
やまなしブランド推進担当　主査　平林　正光

■略歴
2000 年より山梨県に入庁、2013 年より観光企画・ブランド推進課に配属。

事例発表
講演②

ペット宿（同伴宿泊ホテル）の課題と推進方策

株式会社セラヴィリゾート泉郷　**市原隆夫**

2000 年前後より始まったといわれる「第 2 次ペットブーム」を背景に観光地におけるペット受け入れ施設は増大を続け現在では 2,000 軒以上とも言われ、1 泊 6,000 円代から 1 泊 30,000 円前後の高級旅館、ホテルまでと多様化し、ワンちゃんとの旅行はあっという間に見慣れた日常的なものとなってきました。この間、ワンちゃんたちはペットから家族と呼ばれる存在となり、家庭内での立場は劇的に変化し、家族だから一緒に「家族旅行」に行くのが当然と考えられるようになってきました。

しかしアンケート調査によれば実際に愛犬と旅行をした経験のある方はペットオーナー全体の３０％～３５％、との結果です。「本当は一緒に行ってみたいが・・」という希望を持ちながら、なかなかトライできない方が多数いらっしゃる、というのが実情のようです。

愛犬との旅を検討する上で心理的にブレーキをかけてしまう要因は「排泄の失敗」「無駄吠え」「旅先での病気」等々、様々であり受け入れ施設側もペットオーナーのストレス軽減に向け、施設の改修等を進めてきました。またペットオーナーの要望も犬旅黎明期における「ペットと泊まれるだけで幸せ」から「食事はペットと一緒」「ドッグランは当然」「ペット用お風呂も欲しい」等ペットに対するサービスの充実への要望が増加し、施設側も試行錯誤を繰り返してきました。さらに現在は「大きな露天風呂でリフレッシュ」「旬の会席料理」「客室からの眺望」等々、「ペットがストレスなく楽しく過ごせるだけでなく、かつペットオーナー自身も十分に満足できる旅」へと要望はさらに高まり、これからの犬旅の基本的な姿になりつつあります。施設側もさらなる進化・変革が求められています。ブログ・フェイスブック等リアルタイムでの情報発信手段の飛躍的発展により「ペットもペットオーナーも満足な旅」はこれまで旅行未経験者の旅行デビューを誘発する最大のきっかけとなり、裾野拡大のためにも受け入れ施設のさらなる進化が必要となっています。

一方、ペットとの旅の日常化に伴い、ペットのしつけ・マナーの低下の事例も増大しています。多くの受け入れ施設からペットとの旅デビューを目的とした基本的マナーの情報発信を続けることにより、「ペットとの旅」はペットオーナーが一般社会でも通用するマナーを学んでいく最良のきっかけとなる可能性が高く、より良いペット共生社会の実現の一助になりうるものと考えています。

図 1：2010 年わんわんパラダイス１０年間エピソード集「五ッ星わんこホテルへ、ようこそ!」

株式会社セラヴィリゾート泉郷　市原　隆夫

■略歴
２００１年　わんわんパラダイス第１号となる「八ヶ岳わんわんパラダイス」立ち上げ　２００４年　鳥羽わんわんパラダイスホテル支配人、２０１０年わんわんパラダイス１０年間のエピソード集「五ッ星わんこホテルへ、ようこそ!」を出版、２０１３年より伊豆高原わんわんパラダイスホテル支配人　現在に至る

事例発表
講演③

リゾート・レジャー施設における
ペット受け入れの課題と推進方策

株式会社西武ペットケア　代表取締役　**田中健司**

2000 年代に入りペット飼育可能な集合住宅の普及、小型犬種の人気上昇、室内飼育率の増加などを背景に、ペットのコンパニオンアニマル化（家族化）が進行しています。

ペットとの生活における三要素ともいえる「医・食・住」の整備が着実に進む一方で、ペット同伴で旅行やレジャーに行く「遊」というキーワードは、ペット非同伴の一般のお客様やペットが苦手な方々との折り合いが難しく、十分に普及浸透が進んでいません。

またそうした背景が、「ペット飼育により旅行に出かけづらくなる」という、ペット飼育の阻害要因ともなってしまっている現状（※図表 1 参照）があり、近年のペット（特に犬）の飼育頭数減少の要因の一つとなっているとも考えられます。

西武グループではそうした市場やお客様ニーズの変化を受け、2011 年より「ペットと一緒にお出かけしよう」をスローガンに、「ペットスマイルプロジェクト」をスタートし、グループ横断的にペットフレンドリーな施設整備に努めております。

本講演では、同プロジェクトのディレクションを行う立場から、西武グループの事業の中でも、とりわけリゾート・レジャー施設にフォーカスし、ペット受け入れに際しての課題と推進方策について提言し、ペット・ツーリズムの一層の普及浸透に資することができればと考えております。

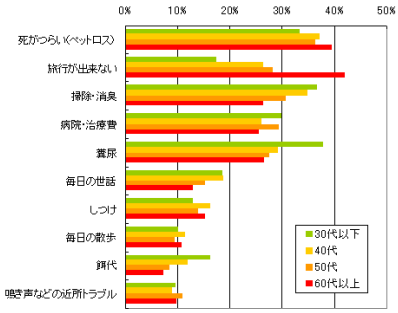

図１：ペットを飼っていて困っている/困ったこと、問題点
出典：2012 年　@ニフティ なんでも調査団「動物・ペットについての本音・実態調査」

図２：ペットスマイルプロジェクトホームページ
出典：http://www.seibu-group.co.jp/pet-smile/

株式会社西武ペットケア　代表取締役社長
非営利一般社団法人日本ペットサロン協会　理事長　田中　健司

■略歴
2007 年に株式会社西武ペットケア 代表取締役社長に就任。ペット共生マンションの企画コンサルティング、ペットサロン「PET-SPA」の運営などの事業を推進する傍ら、2011 年からスタートした西武グループ「ペットスマイルプロジェクト」のディレクションを行う。2013 年より日本初のペットサロンの業界団体である非営利一般社団法人日本ペットサロン協会の理事長を兼任。

趣旨に賛同される団体等のご参加をお待ちしています

全国ペット・ツーリズム連絡協議会設置要綱

（改正　平成 26 年 7 月：ペットツーリズム推進協議会との合併に伴う改正）

（名称）
第１条 本組織の名称は、全国ペット・ツーリズム連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）とする。

（目的）
第２条 ペットとの同伴宿泊旅行等の需要が増大しつつある現状にかんがみ、ペット・ツーリズムのより一層の拡大と適正な推進を図るため、産官学民の連携・協力を図りながら、ペット・ツーリズムに関する知識の普及啓発及び調査研究に関する助言または支援を行い、もって観光の振興、ペット・ツーリズム産業の健全な発展、ペット・ツーリズム利用者の利便性の向上及び適正飼養の普及に資することを目的とする。

（事業）
第３条 連絡協議会は、前条の目的を達成するため、次の事項に関する意見交換、情報提供等を行う。
（１）国内外におけるペット・ツーリズムの実態調査
（２）ペット・ツーリズム利用の推進、関連知識・技能の向上、大学等における講義等による普及啓発
（３）関連施設の設計及び管理運営、法制度等に関する調査研究
（４）ペット・ツーリズムの適正な推進事業の顕彰（ペットツーリズム大賞など）
（５）ペット・ツーリズム産業の健全な発展
（６）ペット・ツーリズム利用者の利便性の向上、マナー及びモラルの啓発
（７）その他前条の目的を達成するために必要な事項

（参加団体等）
第４条 連絡協議会は、連絡協議会の目的に賛同する産・学・官・民の次に掲げる団体の参加をもって構成する。なお、必要に応じてオブザーバーとしての参加もできるものとする。

（事務局）
第５条 連絡協議会の事務を処理するため、事務局を設置する。
事務局は参加団体等の協力を得て、連携・協力して行う。

（その他）
第６条 この要綱に定めるもののほか、連絡協議会の運営に関する事項その他必要な事項は、連絡協議会に諮り定めるものとする。

（附則）
１．本設置要綱は、平成 25 年 7 月 23 日から施行する。
２．ペットツーリズム推進協議会との合併に伴う所要の改正を平成 26 年 7 月より適用する。

ペット・ツーリズム宣言

平成２５年７月２３日

全国ペット・ツーリズム連絡協議会

ペット・ツーリズムの適正な推進は、観光立国推進基本法において主唱されている施策である「地域特性を踏まえた魅力ある観光地域づくり」に寄与するのみならず、マハトマ・ガンジーの言葉に象徴されるように、動物愛護管理法の究極的な理念である「人と動物とが共存できる優しい社会の実現」にも多大な貢献をするものである。

※マハトマ・ガンジー（1869 年 - 1948 年）

"The greatness of a nation and its moral progress can be judged by the way its animals are treated."

"国の偉大さと道徳的発展は、その国における動物の扱い方で判る"

しかし、現在、ペット・ツーリズムは、単なる一過性のニュー・ツーリズムの一種として認識されている傾向が強く、また、その実態も飼い主やペット側のニーズの把握が不十分なままに、供給側である事業者サイドの意向を強く反映して予定調和的に進められているきらいがある。

このような現状を踏まえて、全国ペット・ツーリズム連絡協議会においては、ペット・ツーリズムの適正な推進が着実に図られる体制の構築を目指して、産官学民の連携協力のもとで、科学的な知見に基づいたガイドラインやペット・インフラストラクチャーの整備が、飼い主のニーズやペットの生理・生態を十分に斟酌しながら進められていくように努めていくこととする。

お問い
合わせ

全国ペット・ツーリズム連絡協議会　事務局
公益社団法人日本愛玩動物協会
〒160-0016　東京都新宿区信濃町 8-1
TEL.03-3355-7855　FAX.03-3355-7880
東洋大学国際地域学部国際観光学科
URL http://www.jpc.or.jp/ptm

【全国ペット・ツーリズム連絡協議会の概要】

ペットとの同伴宿泊旅行等の需要が増大しつつある現状にかんがみ、ペット・ツーリズムのより一層の拡大と適正な推進を図るため、産官学民の連携・協力を図りながら、ペット・ツーリズムの健全な発展、利用者の利便性向上、普及啓発及び調査研究を支援し、もって観光の振興及び適正飼養の普及に資することを目的として、平成 25 年 7 月に組織された連絡調整や情報交換を行うための会議（サロン）です。趣旨に賛同される団体等のご参加をお待ちしています。